

月刊しばうら

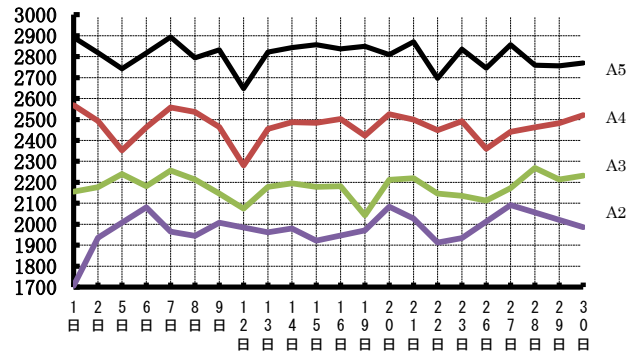
2017年7月号

大動物事業部

<6月の相場動向>

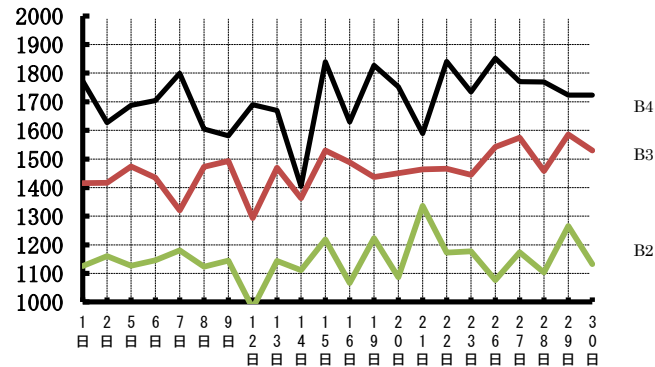
和牛去勢 A5 が前月比 3 円安の 2,818 円、同 A4 が 34 円高の 2,486 円、同 A3 が 2 円高の 2,184 円、同 A2 が 18 円安の 1,931 円となり、交雑去勢は B4 が 24 円高の 1,713 円、同 B3 が 5 円高の 1,470 円、同 B2 が 88 円安の 1,150 円となった。好材料も少なく季節的に需要が鈍化する時期で、引き続き末端需要は停滞状況のなか、和牛は少ない出荷頭数と安定している外食需要もあり前月相場を維持。増加傾向にある交雑牛は、在庫余剰感が顕在化している中で、前月に続き同 2 等級が大幅下落した。

和牛去勢 日別相場表 (6月)



和牛去勢月平均	前年同月比	前月比
A5 2,818 円	(98.8%)	(99.9%)
A4 2,486 円	(95.4%)	(101.4%)
A3 2,184 円	(89.0%)	(100.1%)
A2 1,931 円	(84.2%)	(99.1%)

交雑去勢 日別相場表 (6月)



交雑去勢月平均	前年同月比	前月比
B4 1,713 円	(94.4%)	(101.4%)
B3 1,470 円	(87.5%)	(100.3%)
B2 1,150 円	(77.2%)	(92.9%)
乳牛去勢月平均	前年同月比	前月比
B3 上場なし	—	—
B2 902 円	(82.4%)	(93.6%)

<7月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した貿易統計による 5 月の牛肉輸入通関実績は前年比 21.7%増の 5 万 6,437t と輸入量が 5 万 5 千 t を

超えたのは昨年 7 月以来となった。うちチルドは 15.1%増の 2 万 2,600t、フローズンは 26.6%増の 3 万 3,837t で、これらは豪州産の入船の遅れなどの影響で、5 月は多めの通関となったためである。

農畜産業振興機構の予測による 7 月の牛肉輸入数量は前年比 14.6%減の 4 万 9,400t。チルドは 4.5%増の 2 万 2,000t、フローズンは 25.4%減の 2 万 7,400t。また、チルドの 5 月～7 月の 3 ヶ月平均では 4.7%増の 2 万 1,600t、フローズンの 3 ヶ月平均は 1.0%増の 2 万 7,500t と見込んでいる。

輸入牛肉通関量		5月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	10,596	10,388	102.0%
	米国	11,138	8,336	133.6%
	その他	866	911	95.0%
	合計	22,600	19,635	115.1%
フローズン	豪州	17,998	14,837	121.3%
	米国	11,080	9,405	117.8%
	その他	4,759	2,485	191.5%
	合計	33,837	26,727	126.6%

単位：t

出典：食肉速報

<7月の全国出荷頭数予測>

農水省の食肉流通統計による 5 月の成牛と畜頭数は、前年比 0.9%減の 8 万 200 頭となり、和牛は 2.4%減の 3 万 2,877 頭、交雑種は 5.5%増の 1 万 8,871 頭、乳用種は 3.0%減の 2 万 7,656 頭だった。

農畜産業振興機構による 7 月の出荷予測頭数は、前年同月比 2.3%減の 8 万 8,500 頭と予測している。品種別にみると和牛は、1.0%減の 4 万頭、交雑種は 1.4%増の 1 万 9,100 頭、乳用種は 6.2%減の 2 万 8,100 頭としている。東京食肉市場の 7 月のと畜頭数は 7,800 頭を予定しています。

<7月の牛枝肉相場見通し>

梅雨明け、夏の賞与支給などで末端需要の回復を期待したいところであるが、消費を刺激する材料に乏しくまた中旬以降から季節需要が見込まれる行楽需要や旧盆商戦の手当て買いなどで、活発化とともに引き合いが強まることに期待したい。しかしながらこれまでの需要停滞の影響で在庫を抱えている状況にあり、前月水準のもちあいの相場展開が予測される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,750～2,850	B4	1,700～1,800
A4	2,400～2,500	B3	1,400～1,500
A3	2,100～2,200	B2	1,100～1,200
A2	1,850～1,950		
乳牛去勢			
B3	1,100～1,150		
B2	900～1,000		

小動物事業部

食肉流通統計によると、5 月の全国と畜頭数は 127 万 4,600 頭 (前年同月比 97.1%) となり前年より減少した。また、5 月分の豚肉通関実績は、総量で 7 万 6,321t (前年同月比 112.5%) と前年より上回った。うちチルドが 2 万 8,135t (同 108.5%) で内訳は、米国が 1 万 5,410t (同 102.4%)、カナダは 1 万 1,775t (同 118.2%)、メキシコが 946t (同 102.4%) となった。フローズンも 4 万 8,186t (同 115.0%) と前年を上回り、デンマークが 1 万 364t (同 129.9%)、メキシコが 5,918t (同 111.1%) 米国が 5,194t (同 118.3%)、カナダが 4,742t (同 133.9%) となった。

<6月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	60,200	637	635	571
2日	57,900	647	640	766
5日	53,900	648	629	688
6日	63,300	651	634	841
7日	54,600	641	631	546
8日	60,300	651	634	665
9日	59,700	654	638	719

上旬の全国と畜頭数は 1 日あたり 5 万 8,500 頭と前年を下回る頭数であった。当市場においては平均 685 頭と前年を上回る上場頭数であった。

月替わりと共に全国頭数の減少が顕著に表れた。このため消費の端境期ではあるが、結果的に各種パーツの荷動きは良化傾向となった。一方、輸入物においても在庫量が潤沢とは言えず、大手各社の仕入れは全体的に締まった状況となった。

当市場は上物と中物格差が非常に狭まる相場展開となった。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
12日	60,100	658	631	680
13日	61,300	652	632	686
14日	56,500	637	627	523
15日	62,100	648	644	568
16日	58,600	663	654	787
19日	59,800	652	640	603
20日	59,900	639	608	707

中旬の全国と畜頭数は 1 日あたり 6 万 100 頭と前年をやや上回った。当市場の 1 日平均は 650 頭と前年を下回った。

パーツの荷動きはチルド・フローズンともにスソ物が中心であった。輸入ビーフは高止まり状態となり、鶏肉の値動きも底堅い状況であった。

前年はこの時期、類を見ないほどの荒れた相場展開であったが、今年は周りの地合いも固く、当市場の相場も上物平均価格 650 円、中物 633 円と安定した内容となった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21日	57,100	639	620	523
22日	61,900	636	616	649
23日	57,200	625	606	803
26日	60,900	612	595	766
27日	61,100	629	601	657
28日	55,700	637	620	696
29日	61,200	641	626	570
30日	60,400	663	644	648

下旬の全国と畜頭数は、平均 5 万 9,400 頭と前年を上回った。当市場の上場頭数は平均 664 頭と前年を下回った。

全体的な荷動きはギフト用の補充手当がほぼ終了を向かえ、肩ロースとスソ物はやや鈍ってきた。ロース及び例年

この時期不調なバラについては引き合いが強まった。ヒレもスポット的ではあるが、価格が上昇した。当市場の相場は月末に向けて底堅く締まった展開となり、上物平均価格は 635 円、中物平均価格は 616 円となった。

<7月の豚枝肉相場見通し>

農水省による 7 月の全国と畜頭数は、123 万 8,000 頭 (前年同月比 99.9%) と予測しており、1 日あたりの頭数は約 6 万 1,900 頭である。当市場の 7 月の集荷予定頭数は 1 万 5,000 頭となっており、1 日あたりでは約 750 頭の見込みである。

また、農畜産業振興機構による 7 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 7 万 1,500t (前年同月比 108.1%) の予測となっている。内訳はチルドが 2 万 9,500t (同 106.4%)、フローズンは 4 万 2,000t (同 109.4%) の予測である。

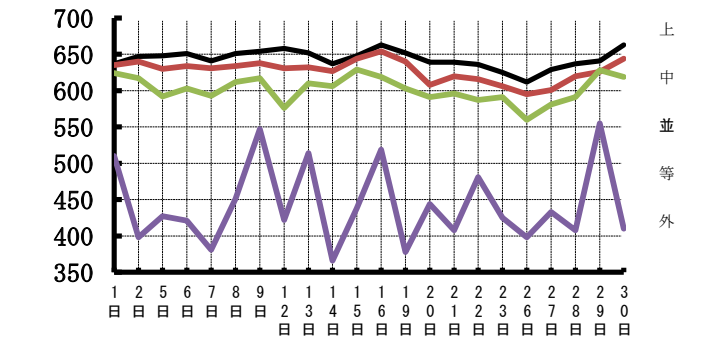
また 4 月における豚肉推定在庫量は、国産品が 1 万 6,865t (前年同月比 93.2%)、輸入品は 15 万 7,155t (同 101.1%) となり合計 17 万 4,020t (同 100.3%) となった。推定出回り量は 15 万 2,468t (前年比 103.7%) で前年を上回った。うち国産品は 7 万 1,123t (同 97.6%) 輸入品は 8 万 1,346t (同 109.7%) であった。国内生産量は 7 万 2,224t (同 96.2%) と前年を下回った。

全国頭数が徐々に減少してきている事と連動して相場が高止まり状態となってきた。一方、代替え品である鶏肉は全般的に堅調な値動きであり、輸入牛においては、14 年ぶりに中国が US ビーフを輸入再開することが決まり、こちらも高止まり状態が続いている。

夏の高値相場を向かえ前年同時期のような乱高下相場もなく安定した相場で推移している。国産・輸入物ともに「在庫はさほど潤沢とはいえない。状況的に穴が見つからなく締まった展開が予測されるが、後半には学校給食が終わり、弱冠落ち着いてくるものと思われる。

当市場の相場は上物平均価格で 620 円、中物平均価格は 590 円と予測する。

豚 日別相場表 (6月)



出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、防疫体制を強化しております。生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127

URL <http://www.tmmc.co.jp/>